

大切畑ダム災害復旧工事の 実施状況について

令和8年(2026年)5月

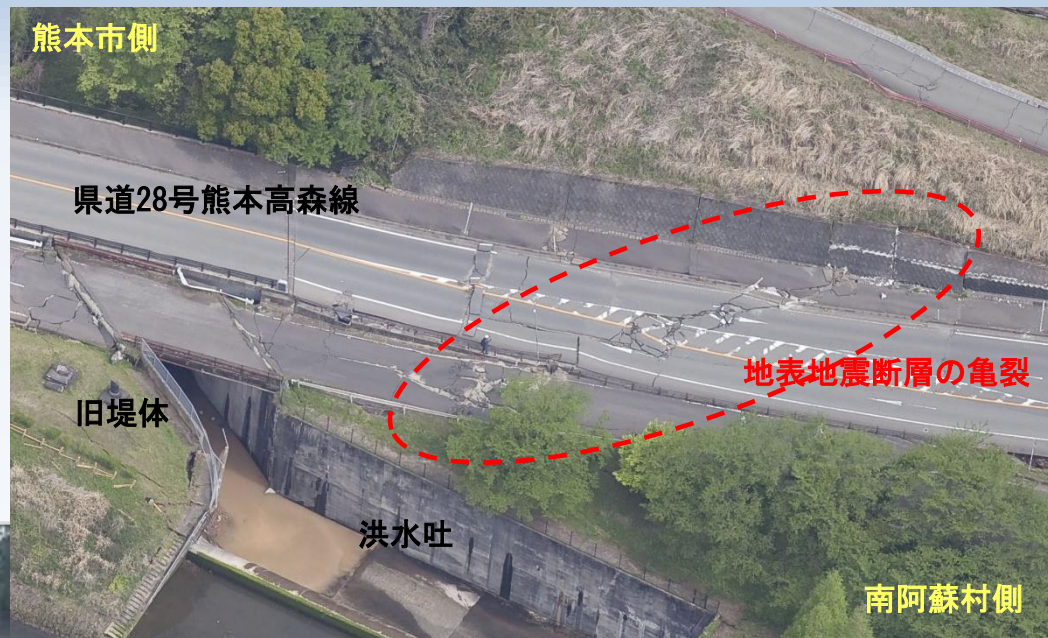
熊本県大切畑ダム復興事務所

大切畑ダム(ため池)の被災状況



熊本地震による大切畑ダムの主な被災状況として、堤体のひび割れ・沈下・洪水吐側壁の損傷、下流水路の埋塞、取水施設・操作施設の転倒、仮排水・取水トンネル等の損傷の被害が発生しました。

県道熊本高森線に出現した地表地震断層



大切畑ダムの概要

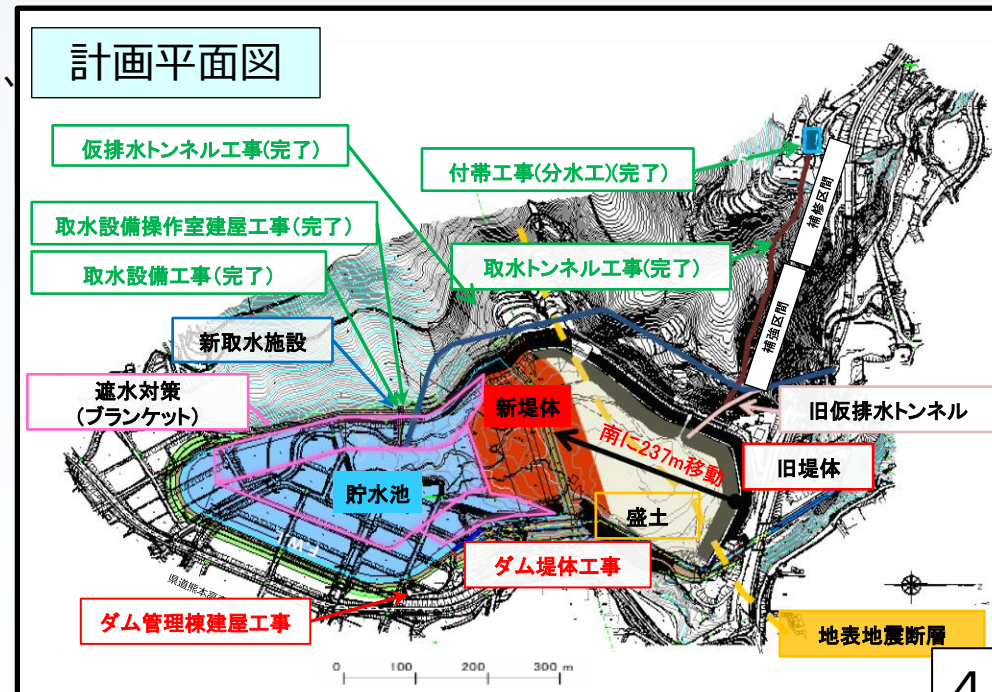
寛文の頃	(1661～1672年)	肥後藩家老米田監物が小規模の堤を築造※
元文元年	(1736年)	大風雨により流失（約120年後の再築まで取り繕いなし）※
安政2～6年	(1855～1859年)	惣庄屋矢野甚兵衛によって再築※ かんがい面積 117町 (昭和33年度刊 農林省農地局白川水系農業水利実態調査書)
昭和28年	(1953年)	6月の集中豪雨で堤体を一部溢流、復旧工事として2m嵩上げ
昭和35～39年	(1960～1964年)	県営老朽溜池補強工事
昭和45～50年度	(1970～1975年)	高遊原地区県営かんがい排水事業で堤体を4m嵩上げ 受益面積 717ha（田 71ha、畑 646ha）
平成28年4月	(2016年4月)	平成28年熊本地震により被災 4月16日 本震 M7.3 震度7（西原村）
平成29年1月	(2017年1月)	災害査定
令和元年12月	(2019年12月)	本体工事着工

大切畑ダムの復旧・復興

- 大切畑ダムは被災以前、西原村の田71haと畑108ha、益城町の畑135haを灌漑するとともに、冬場の水を近隣の深迫ダムに送水し、間接受益として菊陽町の畑403haを灌漑していました。
- しかし、熊本地震により堤体が損傷するなどの大きな被害が発生しました。さらに、被災後の調査で堤体とダム湖内に地表地震断層があることが判明しました。
- そこで、熊本県では復旧に迅速に取り組むため、「大切畑ダム復興事務所」を開所し、復旧に取り組んでいます。
- ダム本体工事は、令和7年10月に堤体の盛立及び洪水吐工が完了しました。現在は、令和8年度の供用開始に向け、試験湛水を実施中です。
- ダム本体工事以外では、令和7年6月に取水設備操作室建屋工事が、11月に取水設備工事が完了し、現在はダム管理棟建屋工事を実施中です。

◆事業概要◆（令和8年4月時点）

- ・農業用ため池復旧工 1箇所
- 【総事業費】 約177億円
- 【受益面積】 605.5ha
- 【関係市町村】 西原村、益城町、菊陽町

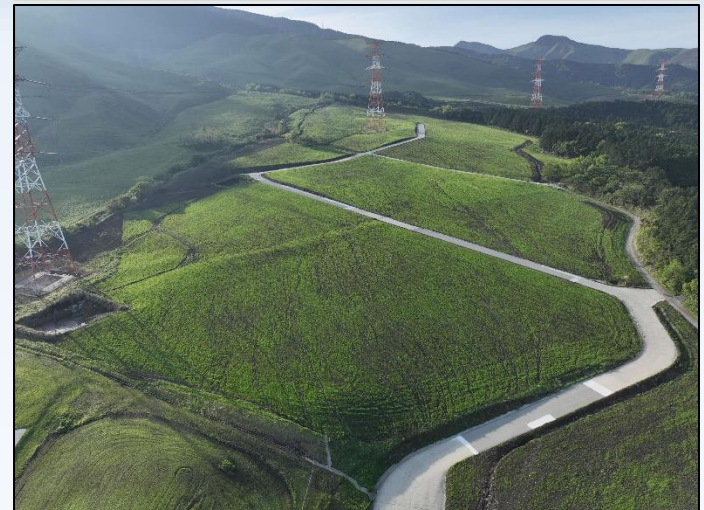


おお きり はた
大切畑ダム災害復旧事業の概要

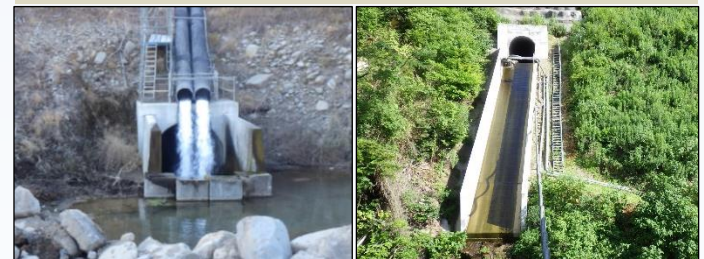
ダム貯水池



遮水材仮置き場(完了)



仮排水トンネル新設(完了)



ダム堤体



取水設備・操作室(完了)



旧取水トンネル復旧(完了)

